別紙様式３

学業及び研究等の進捗状況等報告書
Report of Research Progress and Future Research Plan

※ 本報告書は「4.指導教員からのコメント」を除き「北海道大学総長奨励金」の HP に掲載します。(https://www.oia.hokudai.ac.jp/cier/own-scholarship/)

***This report other than "4. Comments from your supervisor" will be published on the website of "Hokkaido University President's Fellowship". (https://www.global.hokudai.ac.jp/admissions/scholarships/scholarships-for-prospective-students/)**

留学生氏名 Name	スロフ　アルテム SUSLOV Artem	学　年 Year	博士３
所属学院等名 Graduate School	大学院文学院 Graduate School of Humanities and Human Sciences		
所 属 専 攻 名 Major	人文学専攻（表現文化論講座）		
所属研究室等名 Laboratory	欧米文学研究室 Laboratory of Western Literature		
指導教員職・氏名 Supervisor	瀬名波　栄潤 SENAHA Eijun		

１．研究テーマ名 Research proposal

Decoding Women's Voices: Independence and Dependence in WWII Literature through Digital Humanities
女性たちの声を聴く:人文情報学が奏でる第二次世界大戦文学の自律と他律の音楽

２．研究等の進捗状況等 Research progress, etc.

本研究は、第二次世界大戦期の英国・日本・ソ連における女性作家の戦争文学を対象とし、デジタル・ヒューマニティーズ（Digital Humanities）の手法を用いて比較文学的に分析するものである。従来の戦争文学研究では、兵士や戦場体験を中心とした男性作家の作品が主流とされ、女性作家の作品は周縁化される傾向があった。本研究はこうした研究状況を再検討し、女性作家が戦争経験をどのように語り、どのような表現戦略を用いたのかを明らかにすることを目的としている。

研究方法としては、精読と計算機を用いたコーパス分析を組み合わせる方法を採用している。具体的には、自然言語処理技術の一つである固有表現抽出（Named Entity Recognition：NER）および感情分析（Sentiment Analysis：SA）を用い、物語に登場する人物のジェンダー分布や感情表現の構造を分析した。これにより、女性作家の戦争文学に特徴的な表現として男性中心的語りからの逸脱（demasculinization）、感情の抑制（sentiment protection）という二つの傾向を抽出し、戦争文学における女性の語りの特徴を定量的・比

較的に検証した。

本研究の独創性は、文学研究における精読批評とデジタル人文学的手法を統合し、複数言語・複数文化圏の戦争文学を横断的に分析した点にある。特に、英語、日本語、ロシア語という異なる言語圏の文学作品を対象とし、自然言語処理を用いた定量分析によってジェンダー表象や感情表現の構造を比較した研究は少ない。

また、本研究では女性作家の戦争文学を社会的検閲、国家イデオロギー、ジェンダー規範といった複合的な制約の中で分析し、女性作家がこれらの制約のもとでどのように主体的な語りを構築したのかを明らかにした。さらに、文学作品のデジタル分析を行うための分析ツールキット（コーパス構築・解析・解釈の三段階）を提示し、今後の計算文学研究への応用可能性を示した点にも特徴がある。

本研究は博士課程在籍期間中に段階的に進められ、現在は博士論文として完成している。研究の進行は以下の三段階で行われた。

第一段階では、英国、日本、ソ連の戦争文学作品を対象としたコーパスを構築した。英国短編小説約 195 編、日本の原爆文学約 127 作品、ソ連女性作家による戦争文学約 213 作品を収集し、分析用のテキストデータを整備した。

第二段階では、NER および感情分析を用いて登場人物のジェンダー構造および感情表現の分布を分析した。これにより、女性作家の作品では女性登場人物が中心となる傾向が強いこと、また戦争の暴力やトラウマを表現する際に感情を抑制する語りの戦略が用いられていることが明らかになった。

第三段階では、これらの定量分析結果を文学史的・ジェンダー研究的観点から解釈し、各国の文学的伝統や政治的環境との関連を考察した。英国文学では女性中心の語りと感情抑制が顕著である一方、日本の原爆文学ではジェンダー境界を越えたケアの表象が見られ、ソ連文学では社会主義リアリズムの影響の下で女性像が形成されていることが明らかになった。

研究成果の発表・公表実績

2026

Lomaeva, Marina, et al. “Russia’s Post-2022 Arctic Expert Discourse : The Northern Sea Route and Asia.” *Proceedings of the 40th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2025* [Monbetsu, Japan], 2026, pp. 112–16.

Suslov, Artem, and Fujio Ohnishi. “Japan’s Arctic Policy Network: Key Actors in National Diet.” *Proceedings of the 40th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2025* [Monbetsu, Japan], 2026, pp. 112–16.

2025

Suslov, Artem. “Gendered Emotions: Masculine and Feminine Emotional Modes of Writing in Japanese Atomic Bomb Literature.” *Journal of the Japanese Association for Digital Humanities*, vol. 8, no. 1, 2025, pp. 9–25, https://doi.org/10.17928/jjadh.8.1_9.

Lomaeva, Marina, and Artem Suslov. “Russia’s Turn to Asia in the Arctic after Starting the Invasion of Ukraine.” [Sapporo], 2025, Seminar “Asia and the Arctic: Encounters and Entanglements” (Arctic

Research Cener, Hokkaido University).

Ohnishi, Fujio, and Artem Suslov. "Exploration, Observation and Pollution: Academic Communities Shaping the Representation of the Arctic in the National Diet." 2025, The 1st Asia-Arctic Conference of Asia-Arctic Network for Research and Education.

Suslov, Artem. "Japan's Interest on Arctic Sea Routes: Reconsidered Societal Contexts." [Shanghai, China], 2025, Marine Resources Cooperation and Governance: A Roundtable Discussion on Further Cooperation in the Central Arctic Ocean.

Suslov, Artem. "How Do You Feel About the Arctic? Changing Emotional Representations of the Arctic in English Literature from 1500 to the Present." 2025, The 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2025.

Suslov, Artem. "Let LLMs Become Writers: A Literary Experiment on Shōsetsuka Ni Narō Amateur Fiction Platform." *Proceedings of the 14thConference of JapaneseAssociationfor Digital Humanities (JADH2025)*, 2025, pp. 66–68.

Suslov, Artem. "Ruining Emotional Arcs: Robustness of Sentiment Analysis to Textual Noise." [Hong Kong, China], 2025, HKADH2025.

2024

Lomaeva, Marina, et al. "Improving Winter Life in Hokkaido: Proposals by Nitobe College Graduate Program Students and Collaboration with the Regional and Municipal Governments." *Proceedings of The 38th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2024.*, 2024, pp. 88–92.

Suslov, Artem. "Arctic Convoys and Polar Seas in Soviet and British Military Naval Fiction." *Proceedings of The 38th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2024*, 2024, pp. 96–99.

Suslov, Artem. "At Home Among the Strangers: Sentiment Analysis of Mollie Panter-Downes's Wartime Short Stories." [Tokyo], 2024, Chuo International Symposium "Digital Approach to Literary Analysis 2024."

Suslov, Artem. "Masculine and Feminine Writing in Atomic Bomb Literature: A Sentiment Analysis Approach." *Proceedings of the 13thConference of JapaneseAssociationfor Digital Humanities (JADH2024)* [Tokyo], 2024, pp. 38–39.

Suslov, Artem. "Sentiment Analysis and Computer-Assisted Criticism: Revelation of War-Effacing Strategies in Mollie Panter-Downes' Short Stories." 2024, DH 若手の会「デジタル・ヒューマニティーズで"繋がる×広がる"人文学」.

Suslov, Artem. "Sentiment Analysis and Computer-Assisted Criticism: Revelation of War-Effacing Strategies in Mollie PanterDownes' Short Stories." *Digital Humanities 2024: Book of Abstracts*, edited by Jajwalya Karajgikar et al., DH2024 Program Committee Chairs and Local Organizer Committee, 2024, https://doi.org/10.5281/zenodo.13761066.

2023

Suslov, A. V. "Origins of Japanese archaic poetry: Japanese long song (*nagauta / chōka*)." *Japanese Studies in Russia*, no. 3, Oct. 2023, pp. 17–33. *DOI.org (Crossref)*,

https://doi.org/10.55105/2500-2872-2023-3-17-33.
Hiruma Kishida, Yuka. *Kenkoku University and the Experience of Pan-Asianism*. Translated by Artem Suslov, Russian Edition, Academic Studies Press, 2023.

3．今後の研究計画等 Future research plan

これまでの研究成果および現在進行中の研究活動を踏まえ、今後は以下の研究計画を進めていく予定である。

まず、博士論文として完成した研究を基盤として、今後 2〜3 年以内に内容を再構成し、単著書として出版することを目標としている。博士論文で提示したデジタル・ヒューマニティーズの分析手法および女性の戦争文学に関する比較研究を発展させ、より広い文学研究および文化研究の文脈の中で位置づける予定である。

短期および中期的な研究計画としては、現在複数の共同研究が進行している。2026 年 7 月には、京都産業大学の共同研究者とともに韓国で開催される Digital Humanities 2026（DH2026）において研究発表を行う予定である。本研究は、ファンフィクション読者が人間によって書かれた作品と AI によって生成された作品をどのように認識・評価するかを分析するものであり、現在その成果を学術論文としてまとめている。

また、個人研究として、ソ連における女性の戦争文学に関する研究論文を執筆中であり、博士論文で構築した分析枠組みをさらに発展させる予定である。

さらに、北海道大学北極域研究センターおよび北海学園大学の研究者とともに、北極研究に関する複数の共同研究プロジェクトを進めている。これらの研究において、私は主に計量的ディスコース分析の専門家として研究に参加している。具体的には、2026 年 4 月にロシアのメディアおよび専門家コミュニティにおける北極関連言説の変化に関する論文を投稿予定であり、2026 年 5 月には日本の国会議事録を対象として日本の北極政策の変遷を分析した研究論文を投稿する予定である。

今後はこれらの研究をさらに発展させ、日本およびアジア地域における北極認識の形成過程に関する研究を進める予定である。特に、メディア報道および政策議論を対象とした計量的ディスコース分析を通じて、アジア諸国および伝統的な極地国家における「北極アイデンティティ」の形成過程を比較研究することを目指している。